

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 11月 25日(金)  
通算 282号

## ◇ 主役交代 バトン・パス

立冬を越えた辺りからの朝晩の急激な冷え込みは、人が纏う衣を厚くする。対して樹木はと言うと逆だ。葉色を変えた落葉樹は、纏った葉をすっかり落とした。校内の2本の「大銀杏」は、すっかり主役の座を「アメリカフウ」に譲り渡し、そして数日もすれば、その座を玄関前の「ドウダンツツジ」が受け継いでゆく。

10月上旬



10月下旬



11月中下旬



現在の主役:ドウダンツツジ(満天星躑躅)

アメリカフウ



大銀杏



主役交代は植物の世界ばかりではない。

学校生活における子供たちが担う役割や活動も然り。例えば、クラブ活動だ。

しかもこちらは、植物のような自然な流れではなく、子供たちによる芸能技術の「受け渡し」と「受け継ぎ」が明確に存在する。真剣な両者。ここがいい。

役割を全うした先輩から、役割を託される後輩への【受け渡し】と、後輩の先輩への敬意を込めた【受け継ぎ】。これが本校の【伝統】へと姿を変えていく。

10/22(土)の学習発表会を境に、「常磐獅子」<sup>とときわじし</sup>「篠笛」<sup>しのぶえ</sup>も引き継ぎ期間に入った。託す6年生と託される後輩たち。両者とも真剣だが、中でも飛び抜けていたのは、3年生かもしれない。



今年の大改革は、引き継ぎ練習に3年生が加わったこと。後期から参加している委員会活動と歩調を同じくして、3年生もクラブ活動に参加している。

3年生のクラブ活動のスタートは、活動を見て学ぶ「参観期間」だ。この活動は、とても意義深い。上級生が発表に向けてどんな努力を重ねているかを見て、感じて、学ぶ。クラブ活動がスタートしたばかりの3年生にとっては、何よりのお手本だ。さらに参観する場面は、学習発表会前の密度の濃い「仕上げ練習」ときている。3年生の【目が皿】のようになっていたのは、言うまでもなからう。

こうして3年生の心構えは、短期間で急速に醸成<sup>じょうせい</sup>されていく。

学習発表会后、月曜日のクラブ活動の時間にやっと「篠笛」を手にすることができた3年生。やる気満々。気持ちは十二分に高まっている。そんな中で、学習発表会を境に現役を引退し、指導的立場となった6年生からの優しいアドバイス。

こうして明確な「立派で優しい上級生像」が下級生の中で確実に醸成されていく。



「いいな」と思ったのは、5年生も指導的立場で積極的に活動していたところだ。



どちらかと言えば前に出ることをいとわない6年生に対し、少し遠慮しがちな5年生。

けれども、最近は「明らかな成長」を感じる。きっかけは「山の学習」。今後がさらに楽しみだ。

【バトン】は確実に繋が<sup>つな</sup>がれ、力に変わっている。